

平成29年度 英語が好きになる学校づくり事業 取組報告書

事務所名	県南教育事務所	学校名	一関市立舞川小学校	TEL	0191-28-2121
------	---------	-----	-----------	-----	--------------

子供たちが英語を好きになる活動実践、教員の指導力向上

【ねらい】

- 1 英語を使って相手と話をすることができるようになる。
- 2 英語の授業に積極的に関わることができるようになる。

【具体的な取組】

1 研究内容

(1) 先行研究の事例確認 (昨年度研究指定校の成果)

- ① 経験の少ない教員がチャンツの流れを知ること、自信をもって授業を進めることができた。
- ② クラスルームイングリッシュの研究会を行ったことで使用回数が増えた。
- ③ 年度初めに指導案の基本形や振り返りカードを確認したことで授業準備に役立てることができた。
- ④ 「聴き方」の指導を重視したことでリアクションができるようになった。
- ⑤ 実践後、アンケート結果で1年から6年まで9割以上の子供が、「英語が楽しい」と回答した。
- ⑥ 絵や映像を観ながら聞くことで想像力を働かせながら聞くことができた。
- ⑦ 単語を使う場面を変えたことで、体験活動で自信をもたせた。
- ⑧ 話したくなる場面や聞きたくなる場面の設定をして興味をもたせた。
- ⑨ ゲームを工夫することにより、英語を使って友達と主体的に活動することができた。

★上記の⑧と⑨を参考にして実践を進めた。

(2) アンケート調査による児童の意識の変化

(3) 子供に継続的に興味をもたせるための授業の流れや教材の工夫

(4) ALT も取り込んだ英語の環境作り

2 校内研修

4月 校内研 (研究の概要検討)

7月 アンケート実施1回目

校内研 (アンケート結果、6月の県主体研修会の伝講)

夏季休業中 自己研修【2学期の指導案構想】

9月 6学年11月2日の指導案検討 (一関市教育委員会和賀指導主事)

10月 学習発表会での英語の群読 (「英語で一週間」)

5学年の指導案検討 (和賀指導主事) と6学年授業 (和賀指導主事)

アンケート実施2回目

5学年の研究授業 (和賀指導主事)

11月 6学年授業 (英語が好きになる学校づくり公開授業)

校内研 (英語が好きになる学校づくり研究まとめの検討)

2月 舞川中学校教員による英語の出前授業 (予定) (6学年対象)

3 アンケート

(1) 実施日 7月と10月の2回

(2) 対象児童 全児童 (ただし1年のみ10月)

(3) 内容

1	英語(えいご)の勉強(べんきょう)は好き(すき)ですか。どれか一つに○をつけましょう。 ①好き(すき) ②どちらかというとき好き(すき) ③どちらかというとき嫌い ④嫌い
2	英語(えいご)の勉強(べんきょう)で、大変(たいへん)なことはどんなことですか。 ★7月では、ほとんどの児童が、発音することに苦手意識がみられた。 ★11月では、単語を覚える、うまく聞き取れない、続けて話す、相手に伝わらない、指示通りにできないこと等、学習の後の課題がみられるようになってきた。
3	英語(えいご)の勉強(べんきょう)で、これからどんなことをしたいですか。 ★ゲーム、シルエットクイズ、いろいろなものの名前を覚えたい、しりとり等
4	スコット先生と、どんなことをしたいですか。 ★かるた、ゲーム、スポーツ、会話(雑談)、遊び等

(4) アンケート結果

1 英語の勉強は好きですか

(7月) 2年から6年				
学年	①好き	②どちらかというとき好き	③どちらかというとき嫌い	④嫌い
2	10 (91%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (9%)
3	11 (58%)	7 (36%)	0 (0%)	1 (6%)
4	7 (64%)	2 (18%)	2 (18%)	0 (0%)
5	7 (44%)	7 (44%)	2 (12%)	0 (0%)
6	6 (43%)	6 (43%)	2 (14%)	0 (0%)
全体	41 (58%)	22 (30%)	6 (9%)	2 (3%)

(10月) 1年から6年				
学年	①好き	②どちらかというとき好き	③どちらかというとき嫌い	④嫌い
1	14 (67%)	5 (24%)	0 (0%)	2 (9%)
2	8 (73%)	0 (0%)	2 (18%)	1 (9%)
3	10 (53%)	6 (32%)	2 (10%)	1 (5%)
4	10 (91%)	1 (9%)	0 (0%)	0 (0%)
5	12 (76%)	3 (18%)	0 (0%)	1 (6%)
6	4 (29%)	8 (57%)	2 (14%)	0 (0%)
全体	58 (64%)	23 (25%)	6 (6%)	5 (5%)

2 英語を使って、相手と話をすることは好きですか

(7月)				
学年	①好き	②どちらかというとき好き	③どちらかというとき嫌い	④嫌い
5	3 (18%)	8 (50%)	3 (18%)	2 (14%)
6	4 (29%)	5 (35%)	3 (22%)	2 (14%)

(10月) ※黄色は変化あり				
学年	①好き	②どちらかというとき好き	③どちらかというとき嫌い	④嫌い
5	8 (50%)	7 (43%)	0 (0%)	1 (7%)
6	4 (29%)	7 (35%)	2 (22%)	1 (14%)

4 指導内容

- (1) 5・6年の補助教材 Hi, friends! 1と2を使用する。
- (2) 1～4年は、年3回ずつの学校独自の指導案による授業を行う。

5 指導案

補助教材 Hi, friends! 1と2の細案集(冊子にしたもの)を基本とする。

6 指導方法

- (1) 子供同士の活動を行うことで会話の場면을意図的に増やす。
- (2) チャンツ、アクティブ、ゲーム、歌などを5分から10分程度のパーツに分けて毎時間繰り返す。

(3) ゲームに多様性を持たせて、興味を持続させる。ちょっとした変化をもたせる。

* 勝つことや早くすることのみに意識が向いて、英語を使ったり覚えたりすることがおろそかにならないよう注意する。

(4) 子供同士の活動を多く取り入れることにより、会話の場面を意図的に増やす。(アクティブラーニングにつながる視点。課題の解決を子どもたちが主体的に行う。)

(5) 2学期以降行われる(1・2年は教科外)3・4年「国際理解教育」のALTの先生と授業案を考える。(別冊のゲームの内容から取り入れる等)

7 6学年の研究授業指導案(11月2日の「英語が好きになる事業」の公開)

段階	学習内容と学習活動	指導上の留意点	資料等
導入 (8分)	1. あいさつ 2. ウォームアップ ・5フレンズゲーム(「What animal do you like?」を5人の友達に質問する。) 3. 本時の目標の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> おすすめの国について自分の思いを伝えながら紹介しよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを答える場面では、理由も話させ、形式的な挨拶にならないようにする。 テンポよく進めることで、楽しく英語を学習する雰囲気作りに努める。 	
展開 (30分)	4. 「聞く」活動 (1) キーワードゲーム (2) 身近な人のおすすめの国の紹介を聞く ・写真をもとにして、紹介者のおすすめの国を推測する。 ・おすすめの国の紹介を聞き、分かったことを発表する。 5. 「チャレンジする」活動 (1) 友達におすすめの国を紹介する ・紹介の仕方を確認する。 ・ペアで自分のおすすめの国を紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> おすすめの国の尋ね方、国の発音の仕方を再確認させる。 一部分を隠した写真を提示し、紹介を聞く視点を持たせる。 おすすめの色がどこか推測させることで紹介を聞く意欲を高める。 話し手、聞き手のそれぞれの目標について確認する。 HRTとALTとでデモンストレーションをして、活動内容を捉えさせる。 紹介された人は、行きたいか行きたくないかを理由を踏まえて答えるようにし、聞く意欲を高める。 紹介の前半が終わったら、おすすめする側と聞く側の活動の様子を振り返り、後半の活動の目標を持たせる。 必要に応じて、紹介の工夫が見られる児童に学級全体に向けて発表してもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習シート インタビュー動画 おすすめの色ポスター

終末 (7分)	6. 振り返り ・本時の学習を振り返り、シートに記入する。	・日本と外国の人々との生活を比較して気付いたことや、友達との交流をする際に意識したことなどを振り返らせ、本時の学習について評価する。	・振り返りシート
	【記入例】 ・他国と自分たちの生活を比較して、～が同じことや、～が違うことに気付いた。 ・おススメの理由の3つを伝えようと意識して紹介することができた。 ・友達の紹介を聞くときに、分からない時は聞き返したり、分かったときは頷いたりして反応することができた。		
	7. あいさつ		

8 ALT の活用

- (1) 授業ではコミュニケーションの模範として、授業者と活動を行う。
- (2) 掲示場面では、クイズや外国の生活、ものの名前などの掲示コーナーを設ける。
- (3) 英語による紙芝居や絵本の読み聞かせを、会議室で希望者が学年ごとに行う。
- (4) 遊び時間（業間・昼休み）に、ゲームを紹介して児童と遊ぶ。



(ALT による読み聞かせ)



(ALT による掲示物)



9 学習発表会での発表

全校の子供が、学年ごとに割り当てられた英語を含んだ文章を群読して、保護者や地域の方々に練習の成果を披露することができた。

【成果】

- 1 繰り返しの練習が苦手な子供に対して、変化をつけたり、リズムとテンポを意識させたりする活動を繰り返すことにより、繰り返しの練習が好きになり、英語に関心を示すようになってきた。特に、発音練習で成果がみられた。
- 2 授業の中で、目的を明確にした交流活動を取り入れたことにより、子供が主体的に英語を使って活動を行うことができるようになった。(6年生の授業では、「一番〇〇〇な人を探そう!」という課題を与えた。)
- 3 英語を多く使う活動にするために、子供同士が交流し合った回数を評価の一つとした。(回数を多くこなす間に、子供は発音にも慣れ、進んで次の相手とコミュニケーションをとろうとしていた。)
- 4 ALT によるクイズや読み聞かせの場を多く設けるなど、子供と ALT が触れあう機会を増やすことにより、英語に対する興味・関心を高めるとともに、ALT をより身近な存在と感じさせることができた。(アンケート結果において「絵本の読み聞かせが楽しかった」とあり、直接の交流が子供にとって効果があった。)
- 5 単元前半を聞く活動中心に、後半を話す活動を中心に単元計画を構成することで、子供が自信をもって英語を話すことができるようになってきた。(単位時間でも基本的に聞く活動→話す活動で構成した。)
- 6 聞き手の目標「伝わっていることをうなずきや表情で表現する、分からないことは聞き返すなど」を明確に設定することで、話し手が安心して発音できるようになってきた。
- 7 学習の目標を明確にすることで、子供が目的意識や相手意識をもち、進んで学習に取り組むことができるようになった。